

I 以前の私達→「あなたがたは、以前は暗やみでした」：8。

私達は、真の光である主を信じるまでは、暗闇＝罪（不品行、むさぼり、偶像礼拝、自己礼拝、霊的盲目）に支配されていた。自分の罪と悪魔（コロサイ1：13）と死（永遠の滅び＝火と硫黄の池の中で永遠に苦しみを受ける。黙20：10。永遠に神から離れたもの）に支配された希望のない者だった。

「この世にあって望みもなく、神もない人たちでした」（エペソ2：12）。

II 驚くべき先行する恵み。「今は、主にあって、光となりました」：8。

真の光である主は、私達を救おうと心の戸をたたいて下さる。心を開いて主を信じて救われた今は、主にあって（主と霊的につながって）、光となった。「あなたがた（真の光である主を心に迎えた）は、世界の光（主の光を反映して、世界を照らす光）です」（マタイ5：14）。

「いのちのこばをしっかりと握って、彼らの間で世の光として輝くためです」（ピリピ2：16）。わたしは、世の光（罪を照らし、救いを示し、救いに導く光）です。わたしに従う（ついて来る、主を信じる）者は、決してやみの中を歩むことがなく、いのちの光を持つのです」（ヨハネ8：12）。

III 素晴らしい主の恵みへの応答。主はいつも共におられ、すべてを見、知っておられる。

1. 「光の子どもらしく歩みなさい—光の結ぶ実は、あらゆる善意と正義と真実なのです」：8，9。

神は、まず恵みを与え、命じられる。真の光である主を信じ救われた私達は、光の子供とされている、真の光である主が心に住んでおられる。私達の力ではなく、内住のキリスト（真の光である方）が結ばせて下さる実。大切な事は、光である主との日々の命のつながりを持ち続ける事。その時、無慈悲（エペソ4：31）ではなく善意を、道徳的に無感覚（4：19）ではなく、正義（神の目に正しい）を、偽り（4：25）ではなく真実を結ばせて下さる。

2. 「そのためには、主に喜ばれることが何であるかを見分けなさい」：10。

- ①自分が勝手に良いと思ひ込んだ善意、正義、真実ではなく、
- ②人の悪い願いに合わせて人を喜ばせようとするのではなく、
- ③自分の思いや計算ではなく、「主に喜ばれる事、主に受け入れられる事」。主は真に正しい事、真に大切な事、真に益となる事、真に必要な事を知っておられる。「ですから、愚かにならないで、主のみこころは何であるかを、よく悟りなさい」：17。「見分けなさい」：10＝原語：検査、試験、吟味する。試験して本物である事を証明する。確証する。主に喜ばれる事、主のみこころを見分けるのに必要な事＝主との深い交わり、祈り、主に聞く・主の御言葉に聴く・自分を吟味する。自分の真の動機は何か。祈り、御言葉、出来事、吟味を通して、主はみこころを示して下さい。

3. 「実を結ばない暗やみのわざに仲間入りしないで、むしろ、それを明るみに出さない。

なぜなら、彼らがひそかに行っていることは、口にすることも恥ずかしいことだからです」：11，12。

- ①暗やみのわざ、ひそかに行っている事、口にすることも恥ずかしい事＝私達人間の罪、不品行、汚れ、むさぼり、偶像礼拝。

- ②主に抛り頼み、甘い汁の誘惑に負けず、暗闇のわざに仲間入りしない。

- ③「それを明るみに出さない」＝まず自分自身の罪を神に告白し悔い改める。

「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます」(Ⅰヨハネ1：9)。

神の愛、恵み、赦し、真実を心から感謝します。神に自分自身の罪をきよめられたキリスト者の存在が、地の塩(罪による腐敗を防ぐ)、世の光(罪を照らし、真の光である救い主を指し示す)となる。

4. 「けれども、明るみに引き出されるものはみな、光だからです。それで、こう言われます。『眠っている人よ。目をさませ。死者の中から起き上がれ。そうすれば、キリストが、あなたを照らされる』：13, 14。主が、いつ来られるかわからない。私達が、いつ主の御もとに召されるかわからない。いつ死が訪れるかわからない。年齢の順とは限らない。

「あなたがたには、あすのことはわからないのです」(ヤコブ4：14)。

①まだ真の光、真のいのち、真の救いを持っていない方があれば、自分の罪を認めて、キリストを救い主、主として信じましょう。キリストは、あなたを救って下さいます。

②すでに主を信じている私達は、どうでしょうか。霊的に眠っているでしょうか。

「あなたがたは、今がどのような時か知っているのですから、このように行いなさい。あなたがたが眠りからさめるべき時刻がもう来ています。というのは、私たちが信じたころよりも、今は救い(主が再び来られて救いが完成する)が私たちにもっと近づいているからです。夜はふけて、昼が近づきました。ですから、私たちは、やみのわざを打ち捨てて、光の武具を着けようではありませんか。遊興、酩酊、淫乱、好色、争い、ねたみの生活ではなく、昼間らしい、正しい生き方(主の喜ばれる)をしようではありませんか」ローマ13：11-13。

この地上の歩みの中で、キリストが、私達の心を、歩む人生の道を照らして下さい！主の再臨後の新しい天での光は→新しい天の

「都には、これを照らす太陽も月もない。というのは、神の栄光が都を照らし、小羊が都のあかりだからです。諸国の民が、都の光によって歩み」 黙21：23, 24